

民児協 あこっ

支えあう 住みよい社会 地域から

第 60 号 令和 4 年 春号



有幼稚園 おひなさま

民生委員児童委員信条

一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。

一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。

一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

児童憲章

児童は、人として尊ばれる。

児童は、社会の一員として重んぜられる。

児童は、よい環境の中で育てられる。





民生委員児童委員 各地区活動報告

赤穂地区「つなぐ、つながる、地域と元気」

赤穂地区では、友愛訪問を年3回実施しています。今回の春の友愛訪問は、品物に加えて、毎年恒例となってきた小学生の手紙が添えられました。コロナ感染、ロシア軍事侵攻と暗いニュースが続く中の小学生の手紙は、将来の夢が書かれた明るい便りでした。返事を書く高齢者の方が増えてきています。つながれ！地域の輪！



御崎地区「こんにちは、お元気ですか？」

民生委員と地域福祉推進委員で一人暮らし老人・高齢者世帯に対し安否確認を兼ねて6月、11月、2月の年間3回の友愛訪問を実施しています。11月は小学5年・6年生と同伴で訪問し、2月は手作り弁当を持って訪問していましたが、コロナ禍の中で例年通りの内容にはなっていません。事前に訪問日のお知らせを行い、皆さん楽しみに待って下さり、当日は元気な姿を確認し、「いつもありがとう」の一言にこちらも元気を頂きました。



城西地区「コロナ禍、感染拡大に注意して友愛訪問!!」

令和4年1月25日(火)に友愛訪問を実施しました。“第6波”が拡がりはじめ、赤穂市でもこれまでとは比較にならないくらい増え続け不安な日々。お弁当は外注、友愛品を添えて配布しました。お弁当の掛け紙は、『赤中はんこ部』の消しゴムはんこで飾っていただきました。中学生からのメッセージや、受け取った方から『はんこ部』へお礼の葉書が届くなどうれしいニュースがありました。



坂越地区「上高谷自治会防災活動勉強会に参加して」

令和4年3月27日(日)10時より、揖保川町地区防災を考える会、赤穂市危機管理担当、社会福祉課、赤穂防災士の会の出席で自治会の皆様と一緒に、防災士の吉岡弘氏の説明を聞き、「不安なこと」「不安を安心に変えるには」「誰が何を」「平常時にやっておきたい事」等々、グループで話し合いを行いました。今まで避難指示の連絡を受けても危機感がない人もおられましたが、今回の勉強会を通して意識高揚につながったと思います。



塩屋地区「掛け紙作りはプラス & プラス」

令和4年2月3日(木)は友愛訪問。巻き寿司のケースに節分の絵の掛け紙をかけ訪問しました。友愛訪問で配る品物や給食弁当の上には時節にあわせた掛け紙をかけます。担当民生委員と地域福祉推進委員が掛け紙の絵を色鉛筆や顔料などで塗ります。友愛訪問300枚、給食弁当80枚程。「掛け紙を毎回飾っているよ」と高齢者の声。疲れが吹っ飛ばす嬉しい一言。掛け紙作りは大変な仕事ですが、共同作業で委員同士が更に親しくなる機会でもあります。



高雄地区「た・か・お の心で」

高雄地区の民生児童委員・地域福祉推進委員も今年で1期の3年が経ちます。今年も私たちは、「たすけあう かかわりあう おもいあう」の精神「た・か・お の心」で、地域の見守り隊として安否確認・給食サービス・友愛訪問・敬老会等様々な支援やきめ細やかな活動を一致団結して行っています。



西部地区「歳末たすけあい餅配布事業」

令和3年12月19日(日)に『歳末たすけあい餅配布事業』を行いました。三世代が協力してにぎやかに行われていたもちつき大会は、コロナ禍のため2年にわたり中止となりました。しかし、一人暮らし老人、高齢者世帯の皆様が、明るく元気な新年を迎えて下さるよう、業者さんの紅白餅を準備し、地域福祉推進委員さんともお届けさせていただきました。「いつもありがとう」と、とても喜んでくださり、会話も弾みあたたかな交流ができました。



有年地区「けがなし感染なし」

令和4年2月16日(水)友愛訪問を実施。折からのオミクロン株蔓延により手作り弁当が作れず、購入品のおみやげとなりました。幸い有年地区友愛訪問者のオミクロン株感染の報告はありませんでした。友愛訪問該当者も高齢化により、それぞれ子どもさんと同居となる方も増えております。これからも健康に気を付け、けがをしない様、細心の注意を払って下さい。お元気で!!



尾崎地区「友愛訪問」

令和4年2月8日(火)に友愛訪問を実施しました。コロナ禍になって三年目に入りました。なかなか収まりそうにないようです。この二年間、多くの行事はことごとく中止になりました。しかし、友愛訪問だけは中止せずにソーシャルディスタンスを取り、会話を少なくするなどしてコロナに感染しないように注意して実施することにしました。楽しみに待っている高齢者の方がいると思うと中止することは出来ませんでした。



広報部会

新型コロナウイルスが次々と変異し赤穂市における感染された方々の人数も大きくなっています。手洗い・うがい・マスク・大声で話さない、人との距離をとる等、感染予防は常に行いましょう。民生・児童委員は「誰もが健やかに暮らせる安心と安全のまちづくり」の一端を担うために定例会(全体・地区・各部会)、福祉活動や研修会等を行っており、広報紙「民児協あこう」春号・秋号で年二回、その活動をお伝えしています。





児童福祉部会

新型コロナウイルス感染症の流行も早2年となります。その間部会活動は停滞気味ですが、昨年度は不登校についての研修会を行いました。県下小中高の不登校率は1.8%で特に中学生は4.6%と高い。刮目すべきはその原因の37%が家庭の状況によるとのことです。地域で身近にいるであろう子どもの家庭状況を分かってあげられなかったのかと心が痛みました。講師の方も子どもは本当は寂しがっている、声をかけてあげて欲しいとのことでしたが、こちらから声かけをするのは難しいものです。ただ、声をかけずとも側にいること、関心を寄せることが大事ともいわれました。今年度もコロナ感染症次第となりますが、子どもに「関心を寄せること」を心がけ部会活動を行ってまいります。

障がい者福祉部会

長引くコロナ禍、今さらに感染が拡大し続けている状況は、誰もが心身共に疲弊しています。新型コロナウイルス感染症の拡がりでの私たちの生活様式は大きく変わりました。特に障がいのある方の暮らしは大きく影響を受けています。日常生活で新たなバリアができています。ウィズコロナは非接触型社会の形成、価値観の変化をもたらし、コミュニティの破壊、弱者にとって不利な社会をつくり上げています。障がいのある方の中には、その障がい特性により生活上の様々な不安や不便を感じている方がいます。

昨年、私達の活動の中で、聴覚障がいの方からコミュニケーション手段である手話を体験、理解を深める機会を得ました。

改めて新年度は、「ふれあうことが理解に繋がる」をモットーに活動を行います。

高齢者福祉部会

ここ数年の新型コロナウイルス感染症の拡大は、私達の生活スタイルを大きく変化させ、色々な社会問題を顕在化させました。中でも人と人との接触を避けるために急速に進むセルフ化、デジタル化等は高齢者問題にも影響しています。

同時にコロナ禍は、何気ない日常の一コマや家族の絆、地域での人と人との触れ合いが、いかにかけがえのない大切なものであるかを、改めて気付かせてくれました。

現在のところ、感染症は高止まり状態にあります。先の見通しは楽観視できません。今後の状況の変化にも柔軟に対応しながら、今年度も、複雑化する諸問題に対し理解を深めると共に、地域社会の貢献に繋がる研修会を部会員相互の親睦を図りつつ実施していきたいと思っております。



ママなら だいじょうぶ!

根拠のない大丈夫! だけど、それでも、大丈夫だって思えた。

それは4歳だった娘からかけられた言葉

大きな会議で司会をすることになり、緊張していたわたしに娘からかけられた言葉だった。

それから、幾度となく

大丈夫よ! って声をかけた。

雷を怖がって泣く子供たちを抱っこしながら...

地震でうずくまる子供たちと布団にくるまりながら...

表現発表会の朝、不安そうな顔の息子に...

怪我をして手術をすることになった娘に...

初めての受験に不安そうに振り返る息子に...

親元を離れて一人暮らしをすることになった娘に...

大丈夫よ

その一言にたくさんの想いが詰まっている。

編集後記

各地区、部会の活動も三年目を迎えました。今期は、活動開始早々から、新型コロナウイルス感染症が拡大し、思うように取り組めませんでした。

その中であっても、マスクの下には、笑顔で活動されている写真がありました。

マスクなしの笑顔が一日でも早く見られることを願います。